

ルカの福音書 24 章 13-35 節

イースター
～裁きの別の側面～

- 24:13 ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから十一キロメートル余り離れたエマオという村に行く途中であった。
- 24:14 そして、ふたりでこのいっさいの出来事について話し合っていた。
- 24:15 話し合ったり、論じ合ったりしているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。
- 24:16 しかしふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。
- 24:17 イエスは彼らに言われた。「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか。」すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった。
- 24:18 クレオパというほうが答えて言った。「エルサレムにいながら、近ごろそこで起こった事を、あなただけが知らなかったのですか。」
- 24:19 イエスが、「どんな事ですか」と聞かれると、ふたりは答えた。「ナザレ人イエスのことです。この方は、神とすべての民の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。
- 24:20 それなのに、私たちの祭司長や指導者たちは、この方を引き渡して、死刑に定め、十字架につけたのです。
- 24:21 しかし私たちは、この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだ、と望みをかけていました。事実、そればかりでなく、その事があってから三日目になりますが、
- 24:22 また仲間の女たちが私たちに驚かせました。その女たちは朝早く墓に行ってみましたが、
- 24:23 イエスのからだが見当たらないので、戻って来ました。そして御使いたちの幻を見たが、御使いたちがイエスは生きておられると告げた、と言うのです。24:24 それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、はたして女たちの言ったとおりで、イエスさまは見当たらなかった、というのです。」
- 24:25 するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。24:26 キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入るはずではなかったのですか。」
- 24:27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。
- 24:28 彼らは目的の村に近づいたが、イエスはまだ先へ行きそうなお様子であった。24:29 それで、彼らが、「いっしょにお泊まりください。そろそろ夕刻になりますし、日もおおかた傾きましたから」と言って無理に願ったので、イエスは彼らといっしょに泊まるために中に入られた。
- 24:30 彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。
- 24:31 それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。
- 24:32 そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明して下さった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」24:33 すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、
- 24:34 「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現された」と言っていた。

24:35 彼らも、道であったいろいろなことや、パンを裂かれたときにイエスだとわかった次第を話した。

はじめに

エマオへの道の聖書箇所はイエス様の信者に最も愛されている箇所の一つです。

有名な画家も含め、イエス様の十字架と同じぐらい多くの人によって描かれています。

金曜日の受難日礼拝のメッセージでは、イエス様が私達の罪に対する神様の裁きを受けて下さった話をしました。英語で **The other side of the coin** という表現があるように、今日のタイトルの意味は、聖書の中で「裁き」と「神様の救い」は、コインの両面のように切り離すことはできないということです。両方が同じ真実の二つの違う側面です。聖書の最初の創世記から、最後の黙示録までその真実を見ることができですが、一番明確に現わされている場面はイースターです。神様は自分のひとり子の体の上で世の罪を裁いて下さってから、三日経ってイエス様の復活によって私達の罪の赦しと永遠の救いを現わして下さいました。

1. 証明されたイエス様の正しさ。(31 節)

31節「それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。」

イエス様は犯罪者のように不当な逮捕と拷問による取り調べと公開処刑を受けて死にましたから、神様は聖書の預言に従ってイエス様をよみがえらせただけではなく、そのことでイエス様を信じる人々にイエス様の正しさを現わして下さいました。イエス様が死んでから3日目それが始まりでしたが、それは今も世界中で続いています。

コリント第一 15 : 3-8 「私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、4 また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、

5 また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。

7 その後、キリストはヤコブに現われ、それから使徒たち全部に現われました。8 そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現われて下さいました。」

エマオへの道の二人はそれに含まれていませんし、第一コリント15章のこのリストは完全なリストではなくて、いっきに500人以上の兄弟に現れたと書いてあります。イエス様が奇跡的に5000人以上の人を食べさせた時のように、男性の数しか書かれていないので、もしも女性と子どもも入れたら、イエス様はもっと沢山の人の現れています。エマオへの道の二人の弟子の時にも、そこに二人いたのに一人の名前クレオパ (18節) しか書いてありませんが、聖書学者の大半はもう一人は多分、奥さんであると言っています。イエス様が十字架で死ぬ時に、十字架の前にお母さんのマリヤと一緒にクレオパの奥さんが一緒にいたと書いてありますし、三日が経ってご主人と一緒に帰る途中でその晩に泊まるようにイエス様を家に入れたからです。

今日、最初に読んだ31節には、一瞬のうちに突然、二人の心の目が開かれてイエス様が生きている事が分かったと書いてあります。今も、誰でも、イエス様を受け入れる決心の祈りをしたら、必ず、一瞬のうちに心の目が開かれてイエス様が永遠に生きている神の子として見え、復活の信仰の確信が与えられます。

不信仰の心が一瞬のうちに信じる心として新しく生まれるのです。一瞬だけでも見えるようになったら、イエス様が自分の罪の為に死んで下さった事と同時に自分の罪が全て赦されている確信も与えられます。それから、エマオへの道の二人の弟子が経験した全ての事を経験出来るようになります。聖書の全体の中でイエス様が見えるようになるし、聖餐式によってイエス様の食卓で親しい交わりを経験する事も出来るようになります。こういう訳で世界中のイエス様の信者にとってこの箇所が最も愛されている理由なのです。

まだイエス様をはっきり受け入れていない人がいるなら、今、その場でイエス様を心の中で受け入れる決心の祈りをしたら、今日はあなたにとって最初の本当のイースターになります。イエス様が実際によみがえられて、自分に永遠の命を与えて下さっている喜びの日です。

2. 愚かな不信仰。(25節)

ルカ24:25「するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。」

イエス様は、厳しく叱っているようにこの言葉を言っているのではなく、彼らの信仰を励まして強める為に言っています。イエス様の最初の弟子達の中で誰も、復活を信じる事ができませんでした。でも、その後でイエス様の為に自分の命を捧げてもいいと思うぐらい、復活を確信するようになりました。この25節を読む時に、似ている別の箇所 of イエス様の言葉を思い出します。

マタイ22:29「しかし、イエスは彼らに答えて言われた。「そんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからです。」

この話の流れを説明しますが、復活を信じない人達がいて、その人たちはサドカイ派と呼ばれていました。彼らはイエス様に復活を否定させようとして複雑な話しをして来ました。イエス様は聖書を引用して逆に凄く簡単な話しをして答えられました。面白い事に英語で発音してみると、彼らの名前 Sadducees (サデュシーズ) は Sad you see (サッド・ユー・シー) です。復活を信じられない人は当然、永遠の希望はないから、悲しむ人 = Sad you see、という訳です。イエス様は、彼らの間違いの原因を「聖書も、神の力も知らないからです。」と言われました。

エマオへの道の二人のイエス様の弟子も悲しんでいました。

ルカ24:17「イエスは彼らに言われた。「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか。」すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった。」

イエス様は彼らに聖書全体の中に自分について書いてある事を教え、その上に最後に自分が実際に生きている事を現してあげる事によって神様の力も教えてあげました。イエス様は今も、信じたいが信じられない人に全く同じ方法を用いて愚かな不信仰から救って下さいます。

マルコ9:23-24「するとイエスは言われた。「できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」24するとすぐに、その子の父は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」

私達も皆、全く同じです。生まれながらの罪の性質は不信仰のかたまりなので、傲慢になってしまって、逆に信じる事を愚かだと思ってしまう。自分の中で聖書を信じられない、特に死んだ人がよみがえられたなんてことを信じられない、と思っている人がいるなら、安心して下さい。自分のありのままの姿でイエス様のもとに来たら、イエス様は信じられるようにして下さい。復活の確信を与える事によって先ず不信仰の心を一瞬のうちに変え、その確信が与えられてから、聖書全体を信じるように励まして信仰を強めて下さいます。

ルカ24:27「それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。」

ヘブル人12:2「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをもものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。」

このイエス様が与える信仰は今までの自分にとって不可能だった事を実現させて下さいます。すぐ前の11章は信仰について書いてあるところで聖書全体でも一番長い箇所ですが、信仰の英雄達と呼ばれている箇所です。

ヘブル人11:3「信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。」

つまり、本物の信仰は化学や人間の能力だけで、絶対に理解出来ないという事を確信させてくれます。

先週のメッセージで、イエス様が自然界を見て神様の働き方について学びなさいと教えられた箇所

を見ました。空の鳥や野原の花を見なさいと言う箇所です。神様の御国の靈的な法則は同じ神様によって造られた自然界の法則で現わされているからです。

信仰についてトンボから考えてみましょう。

トンボは人生のほとんど、水の中で生きていますが、水から出て翼が出来て空を飛べるようになります。今まで、全く存在も知らなかった新しい世界が見えるようになるのです。しかも、トンボの特徴の一つは目が凄いことです。その大きさだけではなくて目の能力もすごいです。それは、イエス様が与えて下さる信仰の働きを見事に現わしています。それだけではなくて信仰によって強められて全てを乗り越えるのです。

ヘブル人**11:27**「信仰によって、彼は、王の怒りを恐れなくて、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見るようにして、忍び通したからです。」

ペテロ第一**1:7**「信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称赞と光栄と榮譽に至るものであることがわかります。」

いくら金であっても比べられない、もっと計り知れない価値があるのは、イエス様しか与えられない本物の信仰です。

3. 聖なる火

ルカ**24:32**「そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明してくださった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」

今、テレビのニュースでオリンピックの聖火の話をよく聞きますが、この聖書箇所では本物の聖火を見ることができます。

イエス様が与えて下さる愛が心の中で熱く燃えるようになって、イエス様と聖書の御言葉に対して炎のように熱くなります。

先程読んだ御言葉にあった、火が金をきよめるのと同じように、困難や試練は本物の信仰を更に聖めて強めます。聖書では火がきよめる役目を果たす箇所も沢山あります。イエス様が最初に天の大座から最高の贈り物として弟子達に聖霊を送った時に、聖霊が炎として弟子達の上に現わされました。

使徒**2:3-4**「また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。すると、みな聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しました。」

この時に、**120人**が一緒にいたと言われていますが、炎は一人一人に個人的に与えられました。

きよめられると同時に炎のように燃える愛で満たされて、また他の人々を思うイエス様の愛で満たされ、世界中に出て行き、命をかけてイエス様の証しをしました。

ローマ人**5:5**「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」

復活の信仰は炎のように燃える愛と同時に永遠の希望も与えて下さいます。イースターは何よりも永遠の希望を与える時です。

コリント第一 **13:13**「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」

永遠に残るものは、つまり天国に持って行けるものはこの三つだけです。これらは本物の宝物で、お金やこの世の物の何であっても、買う事が出来ません。私達の変わりに死んで下さり、よみがえられて永遠に生きている唯一の救い主であるイエス様しか与えることができません。具体的にどのようにして、イエス様は私達に、個人的に復活の信仰と永遠の希望、そして神の愛を与えて下さるかを見て頂きたいと思います。

ヨハネ**14:21**「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現わします。」

「私自身を彼に現わします」と従う人に約束をしています。エマオへの道の二人に現わして下さったように一瞬のうち心の目が開かれます。それによって全てが変わります。聖書を理解する事も、その時から始まります。勉強や学歴や学習能力は何も要りません。子どもでも、イエス様の言葉に

従うなら、世界一の天才よりも聖書にある神様の真理を知る事が出来ます。その結果、神様の真理であるイエス様を熱く愛するようになって希望で満たされます。

まとめ

ヨハネ**15:10-12**「もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。

11 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。**12** わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」